

令和4年度

運営に関する計画

自己評価
(最終反省)

大阪市立デザイン教育研究所

令和5年1月

大阪市立デザイン教育研究所 令和4年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

組織目標

学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”や“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

現状と課題

大阪市は、大正12年にデザイン・造形・美術を専門的に学ぶ大阪市立工芸学校を設立した。その後、社会の国際化・情報化の進展により情報機器を活用した新しいデザイン技術が必要になってきたことから、デザインに関する知識・技術を向上させるための継続教育機関として、昭和63年に大阪市立デザイン教育研究所を開設した。本研究所は2年生の工業専門課程を有する専修学校であり、これまで産業デザイン分野における全国唯一の公立専修学校として、高等学校のデザイン・造形に関する学科で学んだ専門的な能力をさらに伸長させ、豊かな想像力と国際感覚を持つデザイナーの育成に取り組んできた。現在各学年の定員は45名、総定員数は90名となっている。

しかしながら、本研究所の教育活動に対して一定の評価を得ている一方で、工芸高等学校等の専門学科からの進学者の割合が減少するなど継続教育期間としての役割が低下している。施設については、大阪府立工芸高等学校に隣接しており、4階建て施設の1～3外部分を使用し、4階部分は工芸高校の格技室となっており、出入口などの動線は別になっているものの施設自体が工芸高校と併用される形となっており、工芸高校の府への移管に伴い様々な問題が起きている。

上記のような学校や学生の実態を踏まえたうえで、本校のシステムや特徴を十分に活かし、これまでよりも一層学生一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな指導が実現できるような学校をめざしていきたい。

中間目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 勤労観・職業観を育てるとともに、自己の使命感の確立を目指す。
- 「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 社会で自立できる人材を育成する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育DXの推進によりカリキュラムの改革を図る。
- 積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進める。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 教室における講義中心の知識偏重ではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。
- 「世界自閉症啓発デー」等に取り組むことにより、障がい者を含む全ての人々の社会的、経済的及び政治的なインクルージョンを通じて、不平等を減らす姿勢を育成するとともに、生徒一人ひとりが「自分を大切にすること」の意義を理解し、自分のことを深く知ることによってVUCA（ブーカ）の時代を生き抜く力を育てる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- プロジェクト学習や学校行事等での様々な経験を通して協働する姿勢を育成し、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネスコミュニケーションを身につけさせ、ビジネススキルを高める。
- 教師や講師からの一方通行的な授業ではなく、アクティブラーニングにより、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自己の考えを表現できる力を育てる。また、ICT等を活用して学生の興味・関心を引き出す授業を進める。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ICTを効果的に活用し、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざすとともに、現代社会の著しい科学技術の進歩による急激な変化に対応した「社会に開かれた教育課程」の開発を進める。
- HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することにより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知される活動に取り組む。

3 本年度の自己評価結果の総括

○「世界自閉症啓発デー」に関する取り組み、大阪市立天満中学校と連携して進めた「いじめについて考える日」の取り組みや大阪市の市民局から依頼のあった男女共同参画社会についての市役所ホールでの作品展示などの活動を通じて人権意識を育むことができた。

○年3回のデ研展の開催や大阪商工会議所と連携して企画を進めた「東成ハロウィン」「動画で販促！」での企画や運営を通じて、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。どのような企画でも地域の方々やクライアントとの意見交換が重要であり、学生同士だけでなく幅広く多くの人との協働の大切さを理解させることができた。

○オープンキャンパスや入試説明会で多くの生徒を集客することができ広報に努めてきたが、11月の入学者選抜では44名（定員45名）の志願者という結果であった。今年度は訪問した高等学校は数校にとどまったので来年度は積極的に取り組みたいと思う。

大阪市立デザイン教育研究所 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 教室における講義中心の知識偏重ではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。</p> <p>○ 「世界自閉症啓発デー」等に取り組むことにより、障がい者を含む全ての人々の社会的、経済的及び政治的なインクルージョンを通じて、不平等を減らす姿勢を育成するとともに、生徒一人ひとりが「自分を大切にすること」の意義を理解し、自分のことを深く知ることによってVUCA（ブーカ）の時代を生き抜く力を育てる。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①</p> <p>学生が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自らの力で生き方を選択していくことができるよう、必要な能力や態度を身に付けることを通じて、社会的・職業的自立を促す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末での学生の就職先におけるクリエイティブ関連企業への就職率の割合を90%以上とする。</p>	B
<p>取組内容②</p> <p>「新しい生活様式」において、地域や企業等と連携し、職業に関連したキャリア教育に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70%以上とする。</p>	B

<p>取組内容③</p> <p>防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、実際に体験して学んだことを生かすだけでなく、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>在校中に安全で安心な社会づくりに貢献するプロジェクトに少なくとも1回は参加する学生の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行う。</p> <p>人権教育に関する活動を通じて、他者や障がいをもつ人へ配慮する気持ちを養い、人権意識の向上に努める。</p>	A
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の形成」の評価数値を昨年度以上に向上させる。</p>	
<p>取組内容⑤</p> <p>我が国や郷土の文化・伝統を尊重し、広く伝えるとともに、世界における多様な文化を理解し合い、それぞれの文化的アイデンティティを尊重しながら、課題の解決を図っていく態度の育成を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>年間1回は日本の文化や伝統についての体験的な学習を企画し、教育課程内外における多文化共生教育の推進に努める。</p>	
<p>取組内容⑥</p> <p>奨学金業務の円滑な運営により、生徒が経済的な面で安心して学校生活を送れるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>奨学金の広報活動を工夫し周知徹底に努め、奨学金申請に関するトラブル件数を0にする。</p>	
<p>取組内容⑦</p> <p>情報社会の進展に応じた情報モラルを身につけさせ、自分だけでなく他人の個人情報・法律上の権利を尊重できる態度を養い、適切な情報発信の手段・方法について指導する。</p>	B
<p>指標</p>	

成人年齢の引き下げに伴い自分の責任の大切さを理解していると答える学生の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 「世界自閉症啓発デー」に関する取り組み、大阪市立天満中学校と連携して進めた「いじめについて考える日」の取り組みや大阪市の市民局から依頼のあった男女共同参画社会についての市役所ホールでの作品展示などの活動を通じて人権意識を育むことができた。
- 8月には本校の教職員1名を防火・防災管理者に指名することができ、デザイン教育研究所単独での防災・減災教育に取り組んだ。12月にデザイン教育研究所単独の避難訓練を行い、担架など常備できていない備品についても整備することができた。

次年度への改善点

- 今年度行った防災・減災教育を来年度は発展させ、同じ敷地内ということもあり、次年度からは大阪府立工芸高校と連携を図り、同日に合同で避難訓練を行う予定である。
- 6月の生徒の事故を受け、学生の安全に関する技術の向上を図るため木材加工用機械作業主任者の資格を教員に取得させ技能の向上を図る予定である。

大阪市立デザイン教育研究所 令和4年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準

A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ プロジェクト学習や学校行事等での様々な経験を通して協働する姿勢を育成し、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネスコミュニケーションを身につけさせ、ビジネススキルを高める。</p> <p>○ 教師や講師からの一方通行的な授業ではなく、アクティブラーニングにより、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自己の考えを表現できる力を育てる。また、ICT等を活用して学生の興味・関心を引き出す授業を進める。</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①</p> <p>学生一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。</p>	A
<p>指標</p> <p>学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、年度末のデ研展で報告できた学生の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>グループワークや課題に協働して取り組ませることで、自己の考えを表現できる力を育て、外部の方に自分たちの取り組みをわかりやすく説明できるようにアウトプットする能力の向上を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>デザイン教育研究所の取り組みを外部の方に積極的に説明できたと自己分析できた学生の割合を75%以上にする。</p>	

<p>取組内容③</p> <p>メディア・ユニバーサルデザインの基礎を正しく理解し、多くの人々が「読める」「わかる」情報を発信することが、情報を発信する側の社会的役割であることを意識し、さらなる利便性の向上に向けて取り組む人材を育成する。</p> <p>指標</p> <p>1年次におけるメディア・ユニバーサルデザイン教育検定の合格者の割合を70%以上とする。</p>	B
<p>取組内容④</p> <p>クリエイターとしての必要な英語能力を身につけ、デザインの力を現場で発揮できるように、デザインに関する簡単な英語の文章や会話を理解できる力を育成する。</p> <p>指標</p> <p>在校生全員にTOEICを受験させ、スコアが500点以上の人数を昨年以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤</p> <p>学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、学生が自ら考え、他者と協働しながら物事に取り組み、やり遂げることで、自尊感情や社会人基礎力の育成の一助とする。</p> <p>指標</p> <p>学校行事への参加率を昨年以上にする。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○年3回のデ研展の開催や大阪商工会議所と連携して企画を進めた「東成ハロウィン」「動画で販促！」での企画や運営を通じて、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。どのような企画でも地域の方々やクライアントとの意見交換が重要であり、学生同士だけでなく幅広く多くの人との協働の大切さを理解させることができた。</p> <p>○校外で様々な人と関わることによって、メディア・ユニバーサルデザインの基礎を正しく理解し、誰もが「読める」「わかる」情報を発信することの大切さに気付く機会を十分設定することができた。</p> <p>○クリエイターとしての必要な英語能力を育成するだけでなく様々な国の文化に触れる講座を開講している。秋のデ研展では、2年次生が1年次後期から取り組んでいたアジアデザイン研究の授業の成果をダンスや語りで発表し好評であった。</p>	

次年度への改善点

○来年度はTOEICの指導を強化するため、1年次の授業時間割の中に英語の授業を組み込み、教育委員会からC-NET（大阪市外国語（英語）指導員）を派遣してもらい、ネイティブの発音に触れる機会を設ける予定である。

○9月に行われた鳥取研修旅行では現地で活躍している卒業生から就職や今のデザインに関する職業観などを講義してもらい、今後の就職活動に活かせるような活動となった。来年度も同じ形式で行えるように早い段階から準備するだけでなく、ボランティアへの活動についても積極的に進めていく予定である。

大阪市立デザイン教育研究所 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ ICTを効果的に活用し、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざすとともに、現代社会の著しい科学技術の進歩による急激な変化に対応した「社会に開かれた教育課程」の開発を進める。</p> <p>○ HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することにより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知される活動に取り組む。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①</p> <p>自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに犯罪被害を含む危機を回避するなど、情報を正しく安全に利用できるようにするための情報モラルの育成を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>各授業担当者が年1回以上授業において、情報モラルについての指導を行う。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>デザイン教育の活動において専門性を十分に発揮できるよう「学び続ける教員」を支え、研修・研究などを公共機関や民間企業と共同開発し、教員の指導力向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>大阪商工会議所西支部を中心とし複数の事業所が講師となるオン・ザ・ジョブ・トレーニングに年間10回以上参加する。</p>	

<p>取組内容③</p> <p>学校説明会や校訪問の資料を作成し、本校受験希望者の本校への理解を深めるために学校説明会・学校訪問等を積極的に実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>学校説明会を年間4回以上実施する。在籍生徒の母校を中心に学校訪問を50校以上実施する。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が学生たちの前で健康で生き生きと働くことができ、学生たち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1で50%以上、基準2で75%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑤</p> <p>ICTの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価を100にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○オープンキャンパスや入試説明会で多くの生徒を集客することができ広報に努めてきたが、11月の入学者選抜では44名（定員45名）の志願者という結果であった。今年度は訪問できた高等学校は数校にとどまったので来年度は積極的に取り組みたいと思う。</p> <p>○昨今の「働き方改革」の風潮の中、教職員の時間外労働時間の平均を昨年度の平均より減少させることに成功した。ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価は101であった。</p>	

次年度への改善点

- 来年度は秋の入学者選抜での定員を超える志願者獲得に向け、デ研の存在を高等学校に周知するだけでなく、実際高校生にデザインの世界を体験しデ研に興味を持ってもらうため、各教員が得意とする出前授業を企画し、効果的に広報活動を行う予定である。
- 今年度の「働き方改革」の成果を進め、より働きやすい環境を整えることは、学生の教育環境を整えることとなる。そのためには教育課程の見直しが必須である。来年度は教員も学生も過度な負担にならず、より教育的効果が高められるカリキュラムの編成を研究する。